



楽座新聞 目次

(活動報告会発表順)

楽座新聞

らくざしんぶん

プロジェクト名 (チーム名)	区分 (継続年度)
とよさと快蔵プロジェクト (とよさと快蔵プロジェクト)	継続 (2004年~)
おとくらプロジェクト (おとくらプロジェクト)	継続 (2010年~)
信・楽・人 -shigaraki field gallery project- (信・楽・人 -shigaraki field gallery project-)	継続 (2007年~)
かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY- (かみおかべ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-)	継続 (2012年~)
八坂町プロジェクト (八坂町プロジェクト)	新規
地域博物館プロジェクト (スチューデント・キュレーターズ)	継続 (2012年~)
政所茶レン茶* (政所茶レン茶*)	継続 (2013年~)
男鬼楽座 (男鬼楽座)	継続 (2004年~)
Taga-Town-Project (Taga-Town-Project)	継続 (2004年~)
とよさらだプロジェクト (とよさらだ)	継続 (2009年~)
未来看護塾 (未来看護塾)	継続 (2004年~)
木興プロジェクト (木興プロジェクト)	継続 (2011年~)
たけとも (竹の会所 友の会) (たけとも (竹の会所 友の会))	継続 (2012年~)
たのうらまちづくりプロジェクト (田の浦ファンクラブ学生サポートチーム)	継続 (2013年~)
タクロバン復興支援プロジェクト (タクロバン復興支援プロジェクト)	新規
あかりんちゅ (あかりんちゅ)	S 継続 (2009年~)
内湖における侵略的外来種駆除 (滋賀県大 BASSER' S)	継続 (2011年~)
フラワーエネルギー「なの・わり」(フラワーエネルギー「なの・わり」)	継続 (2005年~)
障がい児・者、自立支援・共生社会プロジェクト (ボランティアサークル Harmony)	継続 (2004年~)
人と環境を救う雨水タンク (廃棄物パスターズ)	継続 (2005年~)

平成27年度 近江楽座活動報告会号

近江楽座の20のプロジェクトが活動をまとめた新聞です。

これらの新聞・ポスターは、基本的にレイアウトが自由なので、チームの個性がそのまま紙面に出ていることも特徴です。楽座メンバーの自信作“らくざしんぶん”をぜひご覧ください。この資料では全て白黒になっていますが、下記「活動成果展示会」におきまして、原稿のカラー版を展示します。ぜひお越しください!

プロジェクト区分について

新規プロジェクト:平成16~26年度に、近江楽座の助成を受けたことがないチームによる取り組み
 継続プロジェクト:平成16~26年度のいずれかに、近江楽座の助成を受けたことがあるチームによる取り組み
 Sプロジェクト:「近江楽座」での実績をもとに、さらなるステップアップをめざすプロジェクトで、活動資金の助成を必要としないもの

2015年度 近江楽座 活動報告会 <プログラム>

2016年4月16日(土)9:30~16:30
 中講義室 A7-101

1.挨拶・感謝状贈呈・プログラム説明

2.活動発表

全20チームが4つのパートに分かれて活動報告を行います。

- 【パート1】9:50~11:05
 拠点・ものづくり
 司会進行: 秦憲志 (近江楽座事務局)
 とよさと快蔵プロジェクト / おとくらプロジェクト / 信・楽・人 / かみおかべ古民家活用計画 / 八坂町プロジェクト
- 【パート2】11:15~12:30
 生活・文化
 司会進行: 濱崎一志 先生 (人間文化学部教授)
 スチューデント・キュレーターズ / 政所茶レン茶* / 男鬼楽座 / Taga-Town-Project / とよさらだ
- 【パート3】13:30~14:45
 防災・被災地支援
 司会進行: 印南比呂志 先生 (人間文化学部教授)
 未来看護塾 / 木興プロジェクト / たけとも / 田の浦 FC 学生 ST / タクロバン復興支援プロジェクト
- 【パート4】14:55~16:10
 教育・環境
 司会進行: 竹下秀子 先生 (人間文化学部教授)
 あかりんちゅ / 滋賀県大 BASSER' S / なの・わり / Harmony / 廃棄物パスターズ

3.全体総括

活動成果展示会を行います!

20プロジェクトの「活動成果展 赤金」を4月18~22日に交流センターホワイエで行います。活動発表だけでは伝えきれない各々のプロジェクトの成果をぜひご覧ください。

活動助言者・紹介

今年度のチームの活動をこれからに生かしていただけるよう、事業を客観的にみていただいて、各チームの活動に対してのアドバイスをさせていただきます。

小島誠司 氏
 (NPO 法人小江戸彦根・彦根城屋形船 副理事長)

彦根生まれ。米原高等学校理数科卒、関西大学社会学部卒。平成19年、国宝・彦根城築城400年祭を機に、水面から見上げる新たな魅力と、いつまでも誰が来ても楽しめる彦根城を実現するために、NPO 法人小江戸彦根を設立。以来10年目で乗船10万人を達成する。江戸時代より続く老舗の料亭小島専務。公益社団法人彦根観光協会の理事(事業イベント担当)、NHK 大河ドラマ・時代劇、映画の考証を受け持つ時代考証学会特別委員、ツアーの企画、アテンドを担当する歴史遺産ガイドとしても活躍。

本間浩平 氏
 (株式会社本庄)

1988年滋賀県大津市生まれ。環境科学部環境・建築デザイン専攻卒。13期生。2009年、近江楽座DIG'Sに立ち上げ時から参加。近江八幡市旧市街地界隈で開催された「W・M・ヴォーリス展」における休憩所として、空き町屋を改修したCaf DIG'Sをオープンし、以後同活動の活動拠点として整備・運営していく。2010年同チーム代表。2011年近江楽座学生委員会を務める。卒業後、彦根市の株式会社永昌堂印刷を経て、現在大津市のイベント・ディスプレイ業者株式会社本庄に在籍。主に県内の美術館・博物館の展示造作を担当。

ビッグニュース!!

ゲストハウス「おむすび」改修

今年で11年を迎えたとよさと快蔵プロジェクト。豊郷町に宿泊できる場所をという想いから、改修12件目となる今回はゲストハウスという大規模な改修を行いました。5月から実測を行い、7月に行われたコンペの最優秀案を基にミーティングを重ね、まちの人やOBに助けをもらいながら、自分たちで設計・改修を行いました。夏の改修合宿、冬の改修合宿、毎週末の改修作業と、例年よりあわただしい活動となりましたが、メンバーがたくさん増えたこともあり、多くの方が改修作業に参加してくれました。合宿時は、Barタルタルーガで食事をとり、改修を終えてシェアハウスに宿泊するというタイムスケジュールで活動しました。



とよさと快蔵 プロジェクト



ちょっときいてよ!

プロジェクト自慢



2015 ミツマルシェ

2012年から始まったミツマルシェも今回で4回目!ゲスト決めや広報、会場の設営など、企画から学生が話し合いイベントを開催しました。大変なことも沢山ありましたが、当日はまちの人や酒蔵祭りに来られた人、県大生など多くの方々にご来場していただき、賑やかなイベントとなりました。今年は滋賀県立大学と関わりのあるゲストさんが多く、共通の話題で盛り上がったほか、庭にカラムを設置することで、普段関わりのない人同士の交流も生まれました。また、このイベントをきっかけに新しいメンバーも加わり、印象に残るイベントとなりました。

2004年に発足したとよさと快蔵プロジェクトは今年で11年を迎えました。この11年間で12件の古民家や蔵をまちづくり委員会の方々と協力しながら改修し、時にはイベントの参加、自らのイベントの開催、改修したBarの運営をすることで、学生なりの視点で「まちづくり」が何かというのを考え、豊郷というまちを元気にしようと考えています。

タルタルーガ ピアガーデン

学生自身が改修した蔵で、経営も学生がしているBarタルタルーガ。地域の常連さんが来てくださる中、興味を抱いて来てくださる新規のお客様がいたり、少しずつ知名度が上がってきているのではと感じることもしばしば。毎年恒例のピアガーデンは、今年は改修合宿の初日で決起会も兼ねての開催だったため、学生の参加人数も例年より多く、地域の人と学生との交流が盛んに行われました。



地域の方々との交流

春の新生活歓迎会、夏のとつと祭りやピアガーデン、秋のコスモスパンクンフェスタやハロウィンイベント、冬のクリスマス会、他にも様々な町内イベントやスポーツ大会に、地域の方々と共に快蔵メンバーは参加しています。このように1年中、地域の方々との交流が多く、親睦を深めることができるのも、快蔵の魅力の1つです。

まちの方々の声

とよさと快蔵プロジェクトの活動も10年を過ぎるほどとなりました。活発に活動される学生さんが卒業してしまうと尻すばみで活動停止になりがちですが、これほど続けて活動してくれてありがたく思います。続いていることもそうですが、歴代の卒業生が現役の学生さんにアドバイスしていることがあったりと、それぞれの卒業した学生さんや現役の学生さんが豊郷という町に思いを持って活動してくれていることをうれしく思います。

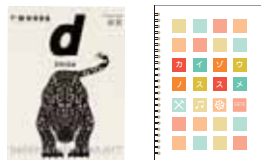
とよさとまちづくり委員会Kさん

いつも、学生の皆さんの活動に地域のものとして本当に感謝しております。11年目の活動を先輩から続け、現在のメンバーの皆さんは、また新しい思いで取り組んで頂いている事も凄く、活動の拡大と変化を感じています。今後も皆さんの活動を続けていただき、地域活性化の大きな一助に大学と共に願っています。ありがとうございます!

とよさとまちづくり委員会Oさん

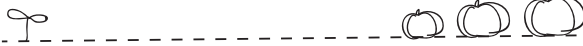
広報・メディア

今年はテレビ取材や新聞、雑誌への掲載など、快蔵の活動がさまざまなメディアに取り上げられました。また、「カイゾウノススメ」という紹介冊子も新たに作成し、広報活動も活発な1年となりました。



1年間の活動を通して

成果と課題



今年度は、久しぶりに大規模な改修ができるということで、コンペや打ち合わせ、改修準備など、例年よりあわただしい活動となったが、メンバーがたくさん増えたこともあり多くの人が活動に参加してくれました。また、コアメンバー以外も先輩方やまちのみなさんに関わる機会が増えて、まちについて考えるいいきっかけが増えたのではないかと思います。まちとの関わりが深まることで、この活動の幅も広がっていくことを期待します。また、メディア取材が増え、プロジェクトの認知度が年々増加していることも成果の一つです。今後も、まちの人と協力して活動を進め、まちの人と一緒に豊郷町を楽しみ、盛り上げていくと同時に、つながりの少ない中高生や、子供たちを巻き込んだ活動も展開していきたいです。

Thank you for reading...!!



地域の声

おとくらを訪れてくださる方のうち多くは、常連の方や、中山道を歩いて立ち寄ってくださる方がほとんどである。地域の方がおとくを訪れることが多いのは、コンサートなどのイベントを開催したときである。そのときにおとくについてお話を伺ったところ、「入りづらい」や「喫茶をやっていることを知らなかった」といった声を聞いた。おとくらの周辺



2015.7.11
座・ギャラリー開始

座・ギャラリー開始

今年度でおとくらプロジェクトは六年目を迎えた。今までの喫茶営業、コンサートなどのイベントの開催、ギャラリーでの作品展示に加えて、二つ目のギャラリーがオープンした。それが「座・ギャラリー」である。
今までのギャラリーは喫茶スペースの一部で行なっていたが、今回は新たな場所を借りての開催となっている。座・ギャラリーとしてお借りした場所は、約六年前までふれあいの館として利用されていたが、何にも使わずに空きスペースとなっていた場所である。この空きスペースを有効活用しようとして七月十一日に座・ギャラリーがオープンした。



座・ギャラリーの開館日は喫茶営業と同様に毎週土、日曜の午前十時から午後五時までである。ギャラリーの展示作品は一ヶ月ごとに、様々なジャンルの作家をお呼びし、入れ替えている。
七月十一日にオープンした座・ギャラリー記念すべき第一弾の展示は、日本画家の日月美輪さんの個展を開催した。これまで、おとくらでは大きな作品を展示することができなかったが、広いスペースを生かして大きな作品を展示していた。
七月下旬には、高宮町に交流の場を設けたとして、中日新聞の取材を受け、新聞に掲載された。
一ヶ月ごとに展示する作品を入れ替えているため、いつ座・ギャラリーを訪れても、新しい作品を鑑賞できるようにし、さらに、訪れた方々が、様々な人と交流できるような空間にしていきたい。

地域への宣伝は、毎月回覧板で行なっているが、その他の方法を考える必要があると感じた。入りづらい店内であるということも問題であるため、おとくら全体で改善策を見つけていかなければならぬ。
一方で、訪れてくださった方に「コーヒーがおいしかった」など、褒めていただくと、おとくらをやっていて良かったと思うことができる。

おとくら

プロジェクト

つてなに？

おとくらプロジェクトは、彦根市高宮町にある古民家を改修し、喫茶営業やコンサートなどのイベントを開催している。そして、これらの喫茶やイベントを通して地域の方や中山道を観光している方々との交流を深めるために活動している。

改修は平成二十一年の夏に完了したが、毎年少しずつ変化し、喫茶、ギャラリー、イベントの運営をよりよくできるようにしている。

そもそも、「おとくら」という言葉は、「音」と、喫茶スペースとして使用している「蔵」を組み合わせた造語である。この造語は、喫茶スペースである蔵の中の地域の方々の会話や子どもたちの笑い声、コンサートなどのイベントでの様々な音が響き渡る空間であってほしいという思いが込められている。実際に、近くに住む子どもたちが遊びに来たり、お客様がゆったりとくつろぎながら会話したり、ピアノやギターなど楽器の音が響き渡っている。

喫茶と併設しているギャラリーでは、毎月様々な作品を展示しているため、喫茶で飲食をするためでなく、鑑賞に来る方も多し。



イベント時の蔵

研修旅行

「カフェ製作委員会」にて

近くに住んでいるなら、いつでもコーヒーを味わうことができる。

おとくらプロジェクトでは、毎年年度末に学生が運営している喫茶店やギャラリーを訪問し、新しい発見や自分たちのスキルの向上を図るために開催している。二〇一五年度は、兵庫県西宮市にある関西学院大学の学生が運営する「カフェ製作委員会」を訪問し、話を伺った。

関西学院大学四回生の大森さんに話を伺ったところ、コーヒー豆の産地として有名なブラジルの農園を巡り、良い豆を選抜し仕入れている豆があるとのことであった。その他の豆もたくさんあったが、すべてこだわっていた。そして、その仕入れた豆はお店で焙煎しているため、お店の周辺までコーヒーの良い香りが漂っていた。さらに、コーヒーのドリップ法が三通りあり、その中から好きなドリップ法で注文できる仕様であった。やはり、ドリップ法の違いでコーヒーの味が大きく変わるということを試飲させていただいたときに感じた。

コーヒーを買いに行けないお客様もカフェ製作委員会のコーヒーを楽しんでいた。ただけるよう、電話注文によるコーヒー豆のデリバリーサービスも行なっていた。西宮市内なら無料で配達していただけたらというので、

おとくらの1年

今年度、おとくらプロジェクトで最も大きい成果は、「座・ギャラリー」を開始することができたことである。今までのギャラリーでは展示することができなかった大きな作品も展示できるようになり、ギャラリーの楽しみが増えたと思う。さらに、座・ギャラリーのオープンに伴って、座・ギャラリーを訪れたついでに、おとくら喫茶にも訪れる方も



2016.3.10
カフェ製作委員会



現れるようになった。
一方で、地域の方にとって入りづらい喫茶店というのは問題である。入ればくつろぐことができる空間を提供しているので、問題を改善するために、コーヒーの提供方法や、おとくらのあり方について見直していく必要があると感じた一年であった。
これからもおとくらプロジェクトのメンバーで知恵を出し合い、様々なことに取り組んでいきたい。



(上) NETSU ポスター
(左下) UCC 滋賀工場展示スペース
(右下) UCC 滋賀工場エントランス



ビッグニュース!!

「NETSU」完成

UCC 滋賀工場では、工場 計画やアイデア出しをい見学があり、人気で予約がすぐにはとれないほどです。その工場見学に来て頂いたお客様にお土産として買って頂くものを滋賀の特産品のひとつ信楽焼を用いて作って欲しいという依頼が窯元散策路の谷寛窯の元にきました。そこに信楽人が入り、商品のデザインやアイデアを共に考えるところからプロジェクトは始まります。

計画やアイデア出しをいれると4年近くかかっている UCC コラボ企画。このプロジェクトは、平成28年3月に UCC 滋賀工場のお土産コーナーに展示されることで完成することが出来ました。ブランド名は「NETSU」。信楽人は、包装紙のデザインやポスターなどを製作し、滋賀工場に展示して頂いています。工場見学でお立寄りの際はぜひ見て頂きたい。

信・楽・人



ちよっときいてよ! プロジェクト自慢



今年のぶらり窯元めぐりでも陶びずを制作し、スタッフとして参加する予定です。

今年のはじめから、窯元めぐりでは、各メンバーが個性的な陶びずを作ることが出来ます。今回は動物系が多かったのですが、年によって種類も様々です。土に触る所から、絵付けまでを行い、焼き上がりは当日のお楽しみになります。



10月17、18日は、完成した改装場所で食イベントにスタッフとして参加。炊きたてのおくじご飯をこちそうにしました。

7月から10月にかけて行われた改装プロジェクト。解体から始まり、内装と外装を作りかえました。床や天井を剥がす作業は、とても根気がいる作業です。改装は、メンバーのほとんどが初めてやったことだったと思います。わからないことやうまく出来なかったこともありましたが、地元の大工さんやOBの方に教わりながら作業を進めることが出来ました。

7月から10月にかけて行われた改装プロジェクト。解体から始まり、内装と外装を作りかえました。床や天井を剥がす作業は、とても根気がいる作業です。改装は、メンバーのほとんどが初めてやったことだったと思います。わからないことやうまく出来なかったこともありましたが、地元の大工さんやOBの方に教わりながら作業を進めることが出来ました。

藤喜陶苑改装



信・楽・人って?

信楽町長野地区、信楽焼を製造している窯元が多数ある焼き物のまち。学生はこの独特な場所だからこそできないことを自ら提案し活動しています。また、窯元からの依頼を受けることもあります。

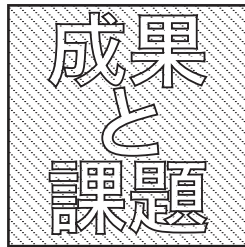
ぶらり窯元めぐり

4月は毎年恒例のぶらり窯元めぐりに参加しました。窯元で陶びずを制作し、当日はインフォメーションの役割を果たしました。

地域の声

谷寛窯では、昨年に引き続き、UCCの商品開発に関わって頂きました。商品が具体的な容になってからは、パッケージデザインや取り扱い説明等細かいところまで話し合いを通じて深めて頂くことが出来ました。そのような過程を進める中、UCC 滋賀工場の担当者とも幾度も打ち合わせ会議を進めて行く中、この度晴れて、NETSUの商品が納品出来る運びとなりました。メンバーの皆さんには、この企画を進めて行く最中、いろいろな思いや意見が多々あったと事と思います。新メンバーとの入れ替わりを通じて、信楽人の皆さんの活動と経験が、実社会に繋がる場として、益々深められますことを希望いたします。

(谷寛窯)



今年度は、藤喜陶苑の改装を行い、忙しい年でした。人数不足に悩みながらも、大学の環境建築デザイン学科の学生や先生、信楽の大工さんと協力しながら無事完成させることができました。改装場所の近所の方からは「何ができるの」との声を何度かあり、完成を楽しみにして頂けました。また、8月には、新たな試みとして、信楽焼の元となる



常滑研修



ぶらり窯元めぐり当日

常滑焼の産地へ研修に行きました。焼き物についての知識が深まり、信楽との町並みの違いも感じ取れました。様々なことに挑戦した年でしたが、一番喜びが大きいのは、UCC コラボ企画が完成したことです。長い年月がかかったプロジェクトを無事世の目に入る場所へ送れたこと、それを見届けられたことに達成感を感じます。今回は、どのプロジェクトも信楽人のメンバーだけでは、できませんでした。多くの人の協力を得て、出来たことであると思います。今後も人との繋がりを大事にして、信楽の魅力伝えていきたいと思っています。

かみおかへ新聞



発行

かみおかへ古民家活用計画
-Sleeping Beauty-

発行日

2016年3月31日(火)

ビッグニュース!!

かみおかへに住民第2号誕生!

今年の3月より、待望の二代目の住民が誕生します。上岡部町に住むことで、地域行事に参加できるようになります。これによって地域の方との交流が深まり、かみおかへの古民家が、より地域に開かれたオープンな場となることが期待されます。

『楽座の活動では、いままでは「学生」や「他地域の住人」という立場でイベントなどを企画してきましたが、僕が住むことで「上岡部町の住人」としての立場から企画できると思います。僕が上岡部町に住むことで、かみおかへという楽座が現地の住民さんたちと寄り添って活動して行くことの足がかりとなりたいです!』

『楽座の活動では、いままでは「学生」や「他地域の住人」という立場でイベントなどを企画してきましたが、僕が住むことで「上岡部町の住人」としての立場から企画できると思います。僕が上岡部町に住むことで、かみおかへという楽座が現地の住民さんたちと寄り添って活動して行くことの足がかりとなりたいです!』

来年度からのかじくんの活躍に期待です!



住民第2号となる梶原諒くん

かみおかへ古民家活用計画 -SLEEPING BEAUTY-について

滋賀県立大学、近江楽座

かみおかへ古民家活用計画-SLEEPING BEAUTY-は彦根市上岡部町にある築140年の古民家で改修、イベント、ひょうたん栽培などをして地域の空き家を活用していくプロジェクトです。皆さんが東京在住のため、古民家の維持管理をしてほしいとのご要望のもと、空き家を有効に活用していくこと、活動しています。今年で4年目になりました。地域よし×学生よし×家主よしのかみおかへの三方よしをモットーに古民家を拠点としてあらゆる繋がりを作ることを目指しています。

地域の方の声



ピザパーティーや地藏盆の夜店のお手伝いをして頂き、活気が増していました。古民家活用にもっとお年寄りが参加して頂き、気楽にくつろげるような雰囲気には育てばと思う次第です。若い方とお話しすると、ぱっと明るくなります。これからも引き続き若い力を当町に注いでいただきます。ようよろしくお願ひ致します。

(上岡部町自治会長 赤田和男)

プロジェクト自慢

2月7日(日)

かみおかへ博物館&お茶会

改修した離れを使って、夏の改修活動の時に古民家の中から出てきた骨董品などを展示しました。地域の方から展示物や古民家にまつわる思い出を聞けたり、お茶を飲みながらお話しすることができました。普段は小さいお子様向けのイベントが多いのですが、今回は幅広い世代の方に参加していただきました。今後は様々な世代の地域の方が参加しやすいようなイベントを企画し開催したいと考えています!

成果と課題

建具を改修することでシェアハウスできるようなったこと、離れの改修が完成したことでイベントスペースとして活用できるようになりました。

イベント開催では、リピーターが定着してき、いつも楽しみにしているとの声をいただけました。

ひょうたん栽培では、昨年度の課題を生かし、今年は連絡をこまめに取り合い、定期的にひょうたんの世話をすることができました。また、ひょうたんの活用方法を学生たちで考え、作ったひょうたんを外部のイベントに出店しました。ひょうたんだけでなく私たちの活動にも興味をもっていたくれました。課題は、仕事の比重が一部の人に大きくなったこと、急に作業日が決まり、参加者が偏ったことです。今後は、ひょうたんの年間スケジュールを作り、作業工程を明確にする必要があります。

冊子作成では、子ども時代の思い出を聞き、昔の上岡部町を知ることができただけでなく、お年寄りの方と深く関わることができました。お年寄りの方がイベントに参加していただくためには、私たちが地域の方に歩み寄り、話をするのが大切だと学びました。

これからは古民家を拠点に、地域の方との繋がりはもちろん、楽座同士、改修でお世話になった人、留学生との繋がりを大切に活動にしていきたいです!



地域の方との交流の様子
参加して下さった地域の方と
交流することができました!



地券の紹介

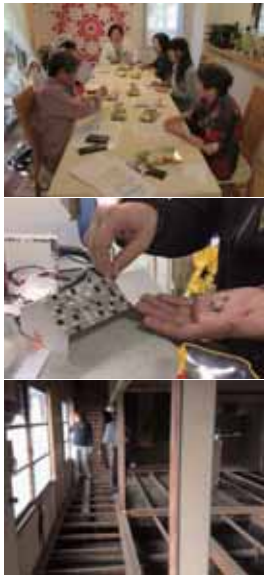
学生たちが展示物の紹介文を作りました!



八坂町プロジェクト

2015

小野邸改修事業始動！！



■スタート！… 小野様宅でWS

現在大阪に住んでいる、八坂に空き家をもつ小野様の自宅ワークショップを行いました。メンバーと小野様の直接的な交流を交えながら八坂町にある空き家の活用について話し合いました。

■作業！… 整理・図面・模型

数年利用されていなかった『空き家』である小野邸は無駄地帯になっていました。まずはその整備から。ある程度片付いたら実測を行い、図面と模型を作成しました。

■提案！… コンペ開催

小野様の自宅を改修するための実施案を4つの班ごとに提案しました。学生のためのシェアハウスを想定して、光、個性、食、居場所といったコンセプトのもと考えました。

どんなグループ？

私たちは滋賀県立大学で学んでいる学生です。滋賀県立大学は彦根市の八坂町に位置しています。



「実務的な設計をしたい！」
「この町を盛り上げたい！」
そんな学生たちが集まってできたのがこの八坂町プロジェクトです。

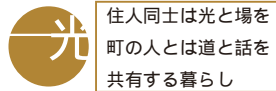


なにをしている？

八坂町にお住いの方々と料理教室やお祭りなどで交流を行ったり



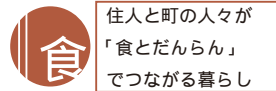
空き家が目立つこの町で
空き家再生の提案や実行を行っています。



住人同士は光と場を町の人とは道と話を共有する暮らし



『ツドマでつながる暮らし』



住人と町の人々が「食とだんらん」でつながる暮らし



自分の居場所がみつかるとの暮らし

各班の改修案



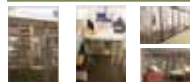
住人の個性が外部にもれだし、そこからつながる暮らし



『あふれだす個人』



住人の暮らしの豊かさを中心に人の居場所をつくる住まい



『O Time Share House』

地域交流・イベント

八坂町民会館にて、八坂町郷土料理教室を行いました。地元の八坂町老人会の方々にたくさん来ていただき、郷土料理であるヌタとお講汁と一緒に作りました。また国際学科の学生から、中国の旧正月に因んだニラ玉餃子を作りました。



和気藹々とした雰囲気料理会をし、またゆっくりお話しする機会となり有意義な会となりました。地域の方のニーズなど、生の現場の声を聞くことができ、良い刺激を受けることができました。



改修案の模型とボードは少しの間展示させてもらうことになり、プロジェクトの活動内容の一部を紹介することができました。

一年間をふりかえって

このプロジェクトは活動開始時、メンバー全体の意識がバラバラでした。会議には連絡してもほとんど人が集まらず、本当に活動しようと考えているメンバーがどれくらいいるのか全く分からなくなってしまっていました。

そのような中で同じ近江楽座のとよさと快蔵プロジェクト元代表の先輩の次の言葉に励まされました。“自分たちが楽しそうに活動をしていたら自然とやりたい人が集まってくるよ。”

私たちは少人数でもとにかくできる活動を進めていく決意をし、特に後期は積極的に取り組みました。2ヵ月、3ヵ月と進むにつれ、メンバーがどんどん戻ってきたり、新たに入りたい！と言ってくれる学生もいました。

それからよりいっそう忙しく活発になった八坂町プロジェクト。今では「設計がしたい！」と言って入ってきたメンバーも地域交流の重要性、面白さを知り、イベントに参加しています。

現在主に活動をしているのは環境建築デザイン学科の学生で、空き家の改修がメインとなっています。数名いた国際コミュニケーション学科の方も4回生ということで卒業してしまいます。私たちは建築のみをこのプロジェクトで行っていくとは思っていません。これからはもっと他学科の学生にも参加してもらい、様々な活動を行うプロジェクトを目指しています。

まだまだ歴史の浅いプロジェクトだからこそ自分たちで考え、決定し、どんな方向にも進むことができます。来年度も、どんなメンバーでどのような活動が生まれるのか楽しみながら成長していきます。

発行年月日
2016年
3月31日
発行元
地域博物館
プロジェクト

白谷荘模型

完成!!!

ついに・・・代表感激の涙!!



地域の声

西近江地方の博物館に長期にわたり継続的に調査・維持・保存に携わっていた。大切に保存してきています。貴重な時間をさいて休日に、数人の自家用車に乗って来ていただいたいます。

学生さん方の活動資料を参考にして一般ボランティアグループの方々にも連携して調査・維持・保存に御協力いただいています。当地方の文化・資料が時代の流れにおきざりにされていくように感じられる昨今、皆様方のおかけでなんとか地域の博物館として成りたっております。

大勢の学生さん地域にふれてもらい、地域文化を守る皆様の活動の意義を感じて貰えればありがたいです。当館もいままです。以上地域文化を守るために、内部資料を活用してまいります。白谷荘歴史民俗博物館川島光男

八月二二日、地域博物館プロジェクトが高島市マキノ町にある白谷荘歴史民俗博物館の模型の完成を発表した。模型は二〇分の一サイズ。実寸記録を元に設計図を描いているため、間取りや縦横比などは比較的本物に近いものになっているとのことだ。地域博物館プロジェクト代表のWさんは「自分達だけではここまでのはできなかった。手伝っていただいた先生や先輩方に感謝したい」と語る。同プロジェクトには、デザイン学科や建築学科の学生がいない。そのため、設計も材料を切り組み立てるのも初めてで、手探り状態の中模型制作を進めたのだという。実際、春に模型制作が決定してから完成までに二か月以上かかっている。しかし、そのほとんどは設計や部品作りに費やしており、組み立て作業は一週間程度であったそうだ。真夏の暑さの中、黙々と作業を進める代表とメンバー、そしてそんな学生を見かねた先生の協力によって、一時は不可能と思われた白谷荘模型は完成したのだ。完成した白谷荘模型は、八月二二日にビバシティ彦根にて開催された「博物館夏祭り」、十一月五日、一六日に滋賀県立大学にて行われた「湖風祭」で展示され、来場者の目を引く存在となっていた。現在はモデルとなった白谷荘歴史民俗博物館にて保管され、来館者へ建物の構造を説明する際に用いられている。今後も、館外でのイベント等の際には白谷荘模型の展示がおこなわれる予定だという。

今年度の成果と課題

今年度の活動の成果は、何と言っても白谷荘模型の完成と、「博物館夏祭り」への参加であろう。前者は、プロジェクトメンバーが外部に対するアウトプットの際に用いることで、言葉や文字だけでは表現し辛い白谷荘のつくりを視覚的に表現することが可能となった。また、博物館模型というモノがそこにあるだけでも存在感があり、博物館内においてもインパクトのある展示となった。また、後者については平成25年度の英語版博物館ガイドブックの作製にはじまり、以来3年目となる滋賀県博物館協議会とのタイアップ事業だ。県内の名だたる博物館が各々ブースを構える中、地域博物館プロジェクトとしてブースをひとつ頂いての参加となった。各館の個性あふれる展示を身近で見ること、対象にあわせた展示の必要性や、その表現方法を学ぶことが出来た。アウトプットは本プロジェクトの課題でもあるため、今回学んだことを来年度の活動に活かしていきたい。

論説！ 地域博物館

地域博物館プロジェクトは、ひとつの地域を活動拠点としてその地に根ざすのではなく、様々な地域で活動することを重視している。それは、このプロジェクトの目的が「地域博物館」という手法のモデル化と普及であるからだ。「学生がいなければ成り立たない地域ではなく、学生がいなくても地域住民が自分たちで盛り上げていけるような地域になってほしい」そんな思いから、ただ博物館として展示作業を行うのではなく、調査段階から地域の方に関わってもらうことで、地域の魅力の再発見、再発信に繋がればと活動している。

「活動の終わりはどこまでか」「引き際をどのようにとらえているのか」などの問題を抱えるところが増えてきた。元来何を目的にしていたのか、その目的のために現在の手段や地域との関わり方は正しいのかなどを吟味しながら、本来の意味で地域のためになる活動を模索していきたいものだ。

★特集★ 地域博物館プロジェクト

民具や古文書、お祭りなど、地域には多くの文化財がある。“地域文化財”や地域の歴史・文化などを住民の方々とともに調べ、“地域博物館”をつくりあげていくことで地域の魅力の再発見をお手伝いする。

今年度は、白谷荘歴史民俗博物館(高島市マキノ町)・下之郷史跡公園(守山市)・旧甲津原分校(米原市甲津原)での活動に加え、ビバシティ彦根(彦根市)にて開催された「博物館夏祭り」にも参加した。

新メンバー募集中!



政所茶レン茶`ーとは

滋賀県東近江市政所町にて、お茶づくりを通して地域活性化にチャレンジするチームです。

滋賀県立大学の授業「地域再生システム(特)論」をきっかけに2012年9月に活動が始まりました。メンバーは学生や教員のほかに本校の卒業生や社会人など、政所やお茶づくりに関心のある人が集まり、はば広い世代の方々が構成されています。

今年度は社会人メンバーで構成された「茶縁の会」が発足しました。これから政所茶レン茶`ーと茶縁の会は別々に活動していきますが、お互い助け合うような活動をし、地域活性化を目指します。



「飛び出し坊や」ならぬ
「飛び出しまんちゃん」完成だ！
でも、設置がまだなんだ... 悲しい(泣)



お茶摘みイベントの様子

政所茶レン茶`ー

私たち政所茶レン茶`ーは、①お茶づくり ②情報誌の発行 ③イベントこの三本軸で活動しています。

① お茶づくり

政所茶や伝統的なお茶の技法を継承するため、またお茶づくりを通してお茶はもちろん、歴史や暮らし・文化といった政所の魅力を発見すべく、地元茶農家である白木駒治さんに研修の場としてお借りする茶畑「茶レン茶`ー園」で、白木氏を含む茶農家さん方からのご指導の下、お茶づくりを実践しています。製造・加工・販売までを行っています。

②情報紙(政所茶レン茶`ーナル)の発行

私たちの活動を地元住民の方々にお伝えすべく、月に一度情報紙を発行し、全戸に配布しています。

③イベント

地元住民とメンバー、そして他所から来た人が交流しつながらりを持つことを目的としています。

お茶摘みイベントがテレビで放送されました!!

私たちが開催したお茶摘のイベントの様子が東近江市のケーブルテレビ「スマイルネット」で放送され、その動画が「まちのわコンテスト」で最優秀賞をいただきました。youtubeに投稿されていますのでぜひご覧ください。

まちのわ2015 6 で検索!!

地域の方のお言葉

きばって(一生懸命に)やってくれているので感心しています。

山形蓮さん(発足当時のメンバー)から4年活動してくれて、政所茶が復活して、大阪や東京へ政所茶の名が売れてきている。政所茶が継承していると感じている。

始めに言ったように、1年、2年で棒にならんようにという事で、畑を貸している。これからも続けていくよう頑張ってください。



白木駒治氏(畑所有者)



河原でひと休み



ススキ取り



政所の茶畑

一年間の活動を振り返って

学業やバイトで忙しい中、適切な時期にしっかりと畑作業を行うことができました。茶畑は急な斜面にあり、足元が悪い。慣れていないと作業しにくい場所であるにもかかわらず、このように一年間続けられてきたのは、地域の方々とのコミュニケーションをとったり、普段味わえない政所の自然を味わったりなどきちんとした目的があって活動してきたからであると考えられます。

活動の中に新たな挑戦を試みても、これまで築き上げてきた地域の人たちとのご縁は変わらずに大切にしたいと思っています。世代は違えども、これまでの活動からもわかるように地域の方々には私たちに對してとてもよくしてくださりました。世間話をする感覚で、もっと政所の人たちとの関係性を深められるよう心を解していきたいです。

2016年3月31日



男鬼楽座新聞

～未来を紡ぐ、男鬼の茅葺き～



2016/3/31

プロジェクト紹介

男鬼楽座の「男鬼」とは？



男鬼は滋賀県彦根市の東の端、多賀町との境目にある山村集落です。現在住んでる人はいませんが、茅葺き民家が残し、周りの自然と一体となって昔の集落景観をとどめています。昭和 30 年後半から住民の離村が始まり、昭和 46 年には、最後の移住者が離村しました。

その後細々と利用されていましたが、荒廃は進んでいます。

男鬼楽座では、そんな男鬼の文化を守るための事業として、男鬼に残る茅葺き住居の茅葺き屋根葺き替えイベントを実施しています。

ちょっと聞いてよ！プロジェクト自慢

ーイベント初日、台風直撃！ー

今年度は男鬼での茅葺き屋根葺き替えイベントを 7/19,20,21 の三日間開催の予定でしたが台風が直撃し初日の活動は中止。二日間の開催となりました。開催日が短縮されましたが多くの方が茅葺き屋根葺き替えイベントに携わりなんとか作業を進めることが出来ました。



イベント参加者の声

ありがたいことに参加者の皆様から、このイベントに参加して「楽しかった」「また来たい」という声をいただいています。今後のイベント開催の際にもこの声を忘れずに、安全で楽しいイベントを提供できるよう励みます。



チームの重大ニュース

ー男鬼の事業、継続 10 年を突破ー

参加者の皆様の支えあって、男鬼での活動は 10 年以上継続するプロジェクトとなりました。この折に、男鬼という地が建物の文化的な価値だけでなく、茅葺き屋根の葺き替体験の場所としても価値を得てきたものとして実感しています。



活動の成果と課題

今年度のイベントでも多くの参加者のもと、男鬼の文化の保存に努めることができました。

しかし現在の男鬼の活動は保存行為にとどまっているので、今後は男鬼の地域をもっと活用できるような事業を展開していければと思っています。

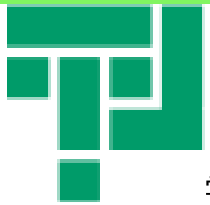
2015 年 葺き替えイベント



Before



After



Taga-Town-Project

学生が、町の人とイベントや取材などを通じて多賀の魅力を発見すると同時に、それを発信し、活動の中で学生と地域の継続的かつ新しいコミュニケーションの形を構築していくことを目指すプロジェクトです。

eメールたが - 学生が多賀の魅力を再発見、再発信



今年度最も力を入れた取り組み「eメールたが」。多賀町の情報を、様々な人たちが相互的にやり取りを行えるFacebookを利用して記事形式で発信し、バーチャル商店街化する商工会主催の取り組みです。その中でTaga-Town-Projectは、町の事業所や商店などに取材を行い、facebookで広報を行ってきました。今年度は14カ所の事業所に取材に伺うことができました。



更新してきた記事がまとめられ、冊子になります！
二年間を通してTaga-Town-Projectが取材させて頂き、Facebookで広報していた記事を冊子にまとめました。
冊子は3月末刊行予定で、今まで取材した各事業所に設置される予定です！

八百秀アパートプロジェクト - 新しい交流スペースづくり

Taga-Town-Projectが拠点としてお借りしている八百秀アパートの新しい使用方法としてイベントを開催しました。今回は2年ぶりに、学生や町の人から集めた古本で行うフリーマーケット兼喫茶として開きました。町の人、学生、観光客の三者が揃う空間の中で、多賀という地域についての話し合いをすることができました。



古本市では、他の楽座チームからの協力も頂きました。
政所茶レン茶からは喫茶のお茶に政所茶を、上岡部古民家活用計画からはひょうたんの商品の出店をお願いしました。同時に来場者には様々な地域で活動する楽座について紹介しました。



町との協力

今年新たな依頼を頂いたのが、町役場からの「多賀町再生策定協議会」への参加です。今年度国から降りることになった地方交付金の使い道について話し合う総会のメンバーの一人として、Taga-Town-Projectも出席することになりました。3つに分かれた部門の中で観光ワーキンググループで積極的に代表者が発言をさせて頂きました。町単位で地域を考える大きな会議の中で、「余所者」からの視点で地域の動向を報告するという経験は、学生の地域コミュニティに対する考え方をより深いものにするきっかけとなりました。



地域再生策定協議会の話し合いを進めていくにあたって、観光客からのアンケート調査を行ってほしいとの依頼を受け、多賀町内の5箇所の場所で、計80人にアンケートを実施しました。



他にも依頼を受ければ町の祭、イベント、農作業、実行委員会などにも参加しています！町の人に覚えてもらえるよう、話し合いにも参加するなどして活動を続けてきました。

収穫祭 in 県大ファーム

2016年（平成28年）

3月31日

木曜日

とよさらだプロジェクト

<http://tgmp.blog81.fc2.com/>

とよさらだ新聞

参加者に農業体験を

近江楽座ボランティアサークル Harmony さんとの共同事業

二〇一五年十一月七日に県大ファームで育てたサツマイモの収穫を行った。収穫にはボランティアサークル Harmony の方と「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」の方、一般参加の方、とよさらだのメンバーの計約四〇名が参加した。この事業は近江楽座ボランティアサークル Harmony の方とあらかじめ計画してきたものであり、私たちとよさらだは五月に県大ファームでサツマイモの一種である安納芋の植え付けを行った。植え付け後は水やりを行ない、植え付けの二ヵ月後からは不定期に伸びた蔓を畝の中央や空いているスペースへと動かすつる返しを行った。収穫前には、芋の試し掘りを行い、芋の大きさを確認した。

当日の流れとしては、サツマイモ掘りを行ない、掘ったサツマイモは焼き芋にして参加者に振る舞うというものだった。また、障害者の方には、お土産として掘ったサツマイモの一部を持ち帰ってもらった。とよさらだとしては、より多くの人々に農業を体験する機会を与えられたことが一番の成果であると考えている。作物の収穫体験は、一種の宝探しのようなものであり、当たり前前に食卓にあがる食べ物があるのと同じように育っているのかを体感できると私たちは考えている。作物や葉の手触り、土の感触や香り、私たちの食を支える作物が実る生きた土に触れ、自らの手で収穫することは、参加者の方々にとって大変良い教育になっていたと考えている。



農家さんとのお米作り

とよさらだプロジェクトは以前から犬上郡豊郷町でお米を作っておられる古川ファームさんに一反の水田を借りており、その水田で種落とし、田植え、草刈り、収穫などのお米作り体験をさせていただいている。

今年度は、四月に古川さんと一緒に種落とし（育苗）の体験をさせていただきました。日程や天候の関係で田植えの体験をさせてもらうことが出来なかったが、田植えをしてから稲刈りまでの間、田の草刈りを定期的に行なった。九月五日にお米の収穫体験をさせていただきました。稲刈りをしながら、お米に紛れ込むと判別しにくい雑草の処理を行った。稲穂は、コンバインで刈り取った。収穫したお米を一月二十八日二十九日にカフェテリアで滋賀県立大学の学生にライスとして提供した。

こえ声 古川ファーム 古川傳次郎 さんの話

毎年大学生の方にお手伝いいただき生産者としては助かります。農業を通して学生さんとのコミュニケーションがとれてとてもいい経験になっています。若い方に農業を理解してもらって今後、社会生活に役立てていただきたい。

種落としから収穫まで体験させていただくことで約一年間のお米農家さんの作業について知ることができた。実際にお米作りを体験したことがない学生もおり、貴重な体験を得ることができたと考えている。



とよさらだプロジェクト

私たちは、滋賀県犬上郡豊郷町で耕作放棄地にある使われなくなったビニールハウスと露地を借りて活動している。年間を通して無農薬で野菜の栽培を行い、栽培した野菜を大学生協、近江楽座の他団体、彦根市直売所や地域のイベントなどで出荷・販売を行っている。また、地域の農家さんに水田をお借りし、田植えから収穫までの体験をさせていただいている。私たちの活動は、地産地消の促進や安心・安全である無農薬野菜の提供すること、野菜作りを体験したことのない学生に機会を与えること、地域とのつながりを持つ場をもつことという三点を大きな目的として活動している。



一年を振り返って

★坊ちゃんかぼちゃの栽培★
とよさらだは昨年より、豊郷町の特産品である坊ちゃんかぼちゃを栽培している。今年度は、坊ちゃんかぼちゃを十五株の苗から栽培し、収穫、出荷までを行うことができた。できた。坊ちゃんかぼちゃは普通のかぼちゃの半分以下のサイズであるが、ビタミンAが普通のかぼちゃの3〜4倍といわれ糖質とタンパク質も多い。



今年度は、野菜作りを体験したことのない人々に農業体験の機会を与えることができたということがとよさらだの大きな成果であると考えられる。今までも人々に農業体験の機会を与えるということは考えてきたが、それが今回近江楽座ボランティアサークル Harmony さんとの共同で実現できた形となった。また、今年度も豊郷町の農家古川さんの田んぼをお借りして、無農薬米を栽培させていただいた。稲の種落とし、畔の草刈り、収穫など一年を通して貴重な体験をさせていただいた。来年度も無農薬米を栽培させていただきたいと考えており、より多くの人々とよさらだの栽培に関わっていただけるようにしたいと考えている。



未来看護塾

チームのビッグニュース!!

11月21日〜23日にかけて、宮城県南三陸町の浦地区で「いきいき健康交流ひろば」を開催しました。

未来看護塾では、2012年より田の浦地方の方々と関わらせていただいています。東日本大震災後から毎年、未来看護塾が被災地を訪問して、今回で4回目でした。田の浦ファンクラブの協力のもと、1年かけて企画・準備をしていました。

今回は準備段階からトラブルが多く、苦労しましたが、メンバーたちひとりひとりが考えて行動し、臨機応変に行動してくれました。困難が多かった分、メンバーたちの団結感も高まりました。



今回の「いきいき健康交流ひろば」では、4回生2人、2回生22人、1回生14人が参加し、健康チェックやハンドマッサージ、足浴、ちびっこ広場、伊丹スーパ（人間看護学部教授・伊丹先生考案のスーパ）を設けました。会場は去年に引き続き小規模でしたが、その分深い交流ができました。その場の判断で、地域の方々へ肩もみマッサージを提供し、まるで「祖父母と孫」のような関係を築き、温かいイベントとなりました。

また、参加者と一緒にラジオ体操を踊ったり現地の歌をギターに乗せて歌ったり笑顔あふれる楽しいひと時となりました。さまざまな支援がある中で、看護学生だからこそできる支援を提供するこのイベントを今後も提供していきたいです。

また、参加者と一緒にラジオ体操を踊ったり現地の歌をギターに乗せて歌ったり笑顔あふれる楽しいひと時となりました。さまざまな支援がある中で、看護学生だからこそできる支援を提供するこのイベントを今後も提供していきたいです。

プロジェクト紹介

未来看護塾では、地域の人々と共により良く生きていくことをめざし、医療現場や地域で働く看護職、ボランティアの人たちとの交流を通して「未来の看護のあり方」を考えています。活動の内容としては、彦根市立病院の小児科病棟で子どもたちと遊んだり、緩和ケア病棟でティーサービスや、花の水やりなどのお手伝いをしたりしています。

また、法人ほぼハウスでは、障がいのある子どもたちと料理を作ったり、一緒に外出するなどのイベントに参加しています。また彦根市立城南保育園では園児たちとの遊びを通して、乳幼児の発達段階を実際に触れ合うことで感じています。

今後は、地域での健康教室や今回訪問した田の浦の支援活動も継続して行っていく予定です。



1年間の活動を通じた成果と課題

今年度の大きなイベントでもあったビバシティでの「生き生き支援活動」では、普段活動している1・2回生だけでなく、1〜4回生、未来看護塾の教員、未来看護塾の卒業生にも参加していただくことで、柔軟に対応ができた。1・2回生にとっては先輩方の地域の方との交流の仕方を間近で見える良い機会にもなり、コミュニケーション方法、健康に関する専門的な知識など学ぶことが多かったと思う。毎年継続している未来看護塾ならではの縦のつながりを活かした活動が行えたと思う。

昨年引き続き行った、2月の宮城県南三陸町の活動では、関係性を築くことができていると実感できた。「いきいき健康ひろば」は未来看護塾が主催で一から企画を行ったが、主に健康を焦点に定めた内容で、普段の看護の勉強を交えながら、被災地で行える活動を考えて。企画から自分たちの力で考えることで、学生一人ひとりの企画力、実行力が養われたと考える。また、現地の方たちと話す機会がたくさんあり、そのなかで被災地の生の声を聴くことができ、いま自分に何ができるのか、学生一人ひとりが考える良い機会になった。被災地での活動では、現地のニーズを取り入れた内容の活動が求められる。遠い被災地ではあるが、現地のニーズを取り入れた活動ができるよう、情報収集に力を入れることが必要だと考える。

未来看護塾の大きな課題は、それぞれの活動に参加するメンバーが固定されてしまっていること、参加人数が集まらないことが多いことである。未来看護塾の活動はますます幅広くなってきたので、メンバー全員の積極的な参加が必要となる。メンバー内での情報共有をしつかり行い、メンバーそれぞれが意識を持って活動できるよう工夫をしていきたい。

未来看護塾の活動は、縦のつながりを大切にし、活かしながら今後も幅広い方々を対象に心も体も生き生きと健康になっていただけるような活動を行っていききたい。同時に学生一人ひとりが看護職者を目指すうえで必要とされるスキルを身につけていくことができたらと考えている。

ちよひとまいてよープロジェクト白慢

未来看護塾は、滋賀県立大学の看護学部生のみが参加しています。入学してすぐに先生や先輩方からの紹介があり、看護学部新入生の多くが加入します。新入生歓迎会、定期活動、イベントの打ち上げなど、同期だけではなく、先輩方と関わる機会が多くあるので仲良くなれます。そのため、看護学部では縦の繋がりが多く、勉強や進路の相談(時には、恋の相談も)笑、最近ではサツカーをすることもありました。とにかく、未来看護は仲がいい!



私たち看護学生は、日頃は学校での講義を受け、年に数回の実習で看護について学んでいます。1・2回生については、年に1度しか実習がなく、なかなか自分の目で現場を見る機会はありませんが、未来看護塾の活動の場は地域から病院まであり、定期活動でも患者さんと関わるという、看護学生にとってたいへん貴重な経験ができます。未来看護での経験は実習で活かせ、また実習での経験は未来看護で活かすことができるのです!

地域の声

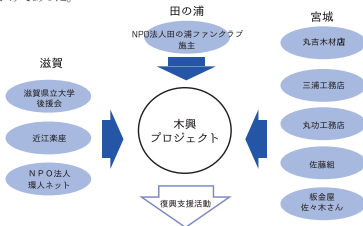
ぼほハウスは、高齢者デイサービスと障がい児童デイサービス、認可外保育の事業所を運営しています。その中でも障がい児童の子も達には「未来看護塾」の学生には多くの関わりを持っていただいています。何らかの課題や障害のある子ども達の社会体験の中には、「いろいろんな年代の人と出会う」ことも人的体験の一つです。ぼほハウスに集う人達は、前述しましたとおり高齢者、乳幼児、またそれに関わる職員も含めると年代的には幅広いのですが残念ながら子ども達に近年の年代の10代後半から20代前半の年代は獲得が難しい職場です。そんな中ぼほハウスにとっては、「未来看護塾」の学生の関わりは大変重要な役割を果たしてくれています。また「未来看護塾」の学生たちに支援してもらった場面では、ほとんどが体験活動が多く、例えば「切符を買って電車で乗って出かける」などの活動では、どの子どもも今の時代車移動が主体です。何事も初めて尽くして不安と緊張のプログラムです。更には障害手帳の減免を子ども達も利用しようとする窓口に切符を買わなくてはいけません。そんな時学生方が子どもひとり一人に寄り添って「大丈夫だよ!」オーラを出してそばで見守ってくれています。改めて私たちは、「寄り添う」ことが子どもたちにとって心強いかな、を目的にしています。そして子ども達の経験の達成感を共有してあげられる人がいるということが子ども達を成長させてくれるエネルギーになります。また時間の経過の中で関わる学生の姿にも言葉がけや仕草から相手を受け入れようとする様子が見られます。子ども達も成長する姿と共に学生達も逞しくなっていく様子が見られるとともに、この学生たちの活動が地域に育つ子どもを支えてくれている役割りとして重要であると実感しています。



01. 木興プロジェクトとは

東日本大震災という未曾有の事態を目のし、建築・デザインを学ぶ私たちに何ができるのか、何かしなければという思いから立ち上がったプロジェクト。加子母木匠塾を母体とした、モノづくりによって復興支援を行う団体である。今年度は加子母木匠塾に参加し、そのメンバーから約15名の学生が参加した。

田の浦とのつながりは現地で活動されていた環人ネットの副理事長である田中好一さんの知人である気仙沼市社会福祉協議会の職員の方の紹介がきっかけであった。



木興プロジェクト 2015

02. 田の浦とは

宮城県本吉郡南三陸町歌津田の浦。リアス式海岸の優れた景観を持つ南三陸町の北西の沿岸に位置する。世帯数 92 戸 人口 330 (平成 22 年度 10 月 1 日現在) 昔から漁業が盛んで、漁業で生計を立てている家が多く、養殖業ではホヤ、ホタテ、ワカメが獲れ、沿岸漁業では刺網漁でマダラ、カレイ、アキザケ、鱈漁ではタコ、白ツブ貝、マガコなどが獲れる。

震災時は 10m を越える津波が押し寄せ、死者 14 名、行方不明者 3 名、55 戸が被災した。

田の浦は震災当初、道路が遮断された陸の孤島となり支援車両が通り過ぎた。そのため、ボランティアもほとんど入らない取り残された地域だった。

2016 年現在、仮設住宅での生活は続いているが、高台移転が進み転居される方々も出てきた。港には 9m の防潮堤が計画されている。



03. これまでの活動

2011 番屋建設

東日本大震災が起こった 2011 年、田の浦の漁港は津波によって大きな被害を受けており、残されたのは小型の船 4 隻と屋根のない作業場のみであった。そこで再び漁師たちが集まるための場所として番屋を建設することとなった。現在、復興が進み漁港は嵩上げが行われ、作業場にも屋根がつけられている。

2012 交流センター建設

2 年目、「応急から復興へ」。田の浦では津波によって村の住人がばらばらになってしまっていた。おじいちゃん、おばあちゃんが集まる場所をつくるため交流センターを建設することとなる。現在、この交流センターが建ちあぐ地では田の浦ファンクラブにより毎月イベントがおこなわれ、地域の人が集まる場所となっている。

2013 交流センター増設

3 年目、完成した交流センターは半屋外の空間が多く、寒さの厳しい田の浦では壁をつけてほしいという要望が多かった。また、より多くの人が集まれるように交流センターの増築が行われた。増築部分には建具を設けて、イベント時にも開放的に使用できるように工夫がなされている。

2014 交流センタートイレ増設・前面部ベンチ制作・番屋移築

4 年目、交流センターの充実を図り、トイレの屋根の増築が行われた。また、田の浦の方々が気軽に交流センターを利用できるよう、パーゴラやベンチなど、建物周辺の設備を充実させていった。3 月には 1 年目に行った田の浦漁港の番屋の移築作業を行った。現在では漁師さんの場と同時に、田の浦で活動してきた団体の活動を展示している。

04. 5 年目の被災地

2011 年 3 月 11 日より 4 年の歳月が過ぎ、被災地は 5 年目になった。大規模な嵩上げ工事がいたるところで行われている。田の浦では造成された高台に住宅が建ち始め、仮設住宅からの転居も進む。新たな防潮堤を築く計画もある。漁業などの生業も元に戻りはじめ、生活も幾分か落ち着きを取り戻してきた。2014 年、これまでにつくってきた田の浦とのつながりを絶やさないためにも、もう一度田の浦にはいることを決めた。交流センターの改修により建物として必要な設備は幾分か調った。しかし、2014 年の「一区切り」を考えた後、田の浦を訪れると、木興プロジェクトとして継続的に関わり支援を行うことがまだある、と考えるようになった。初年度から参加するメンバーはいなくなり、木興プロジェクトは大きな節目を迎えた。復旧を経て、復興が続いている田の浦。人も時間も流れる中、木興プロジェクトの意義を探し、考えた年である。

05. 制作活動

倉庫増築

鶴岡先生ご指導の下、田の浦でのイベントの備品を納める倉庫を制作。基礎づくりから、プレカットされた材を組み立てていった。現在ではものがびっしりと詰め込まれている。



メンテナンス

活動の中心となる田の浦交流センターのメンテナンスを行った。田の浦の方々の要望をお聞きし、今回は建具の調整・防腐剤の塗装などを行った。



パーゴラ増築・花壇整備

前年度に制作したパーゴラに、地域の方々の要望を聞き、ガーデンの世話や散歩がてらに気軽に立ち寄れる憩いの場をつくった。ベンチと日陰になる屋根を制作し、使いづらかったハーブガーデンを本格的に整備した。完成後は田の浦のおばあちゃんたちとブルーベリーの植樹 WS を行った。



06. つながり

命の学習

草津市立玉川小学校において、防災教育の一環として行われている『命の学習』に昨年度に引き続き協力・参加させて頂いた。今年度は田の浦から丸宏建設の佐藤功一さんがいらした。木興プロジェクトとして取り組んできたことを 5 年生 100 人に図表を交えて講義した。



田の浦の方の声

毎回様子を見に来てくださる方や、初めて声をかけて下さった方に支えられ、この活動が続いている。



「高台に新しく集会所はできる。でもそこは契約会の管理だし、高台以外に住む人は使いにくい。この集会所(ニューたの浦センター)で今後もおちやっこ会はすると思うよ。ここが無かったら考えると怖い。」

(田の浦地区・安美さん)

07. 6 年目へ

ものづくりでの復興支援を目的としてきたが、高台造成や防潮堤の建設計画など行政の手が届くようになってきた。関わり始めた頃は違う景色の田の浦を見て、現地の方の声を聞いて木興プロジェクトの活動について考えることを迫られる一年であった。昨年度でハードによる支援は一区切りとプロジェクトとしては考えていたが、メンバーの代わり、新たなヒアリング、提案を通してもう少しできることがあるのではと考えて、活動を行っていった。目に見えて必要なもの、支援すべきものは減ってきたかもしれないが、被災した人の状況も 5 年目を過ぎて変わってくることもあり、地域が抱える問題として外からは見えにくいもの、ことがこれからは出てくる。これらを解決できるの可能性を木興プロジェクトは持っているのではないだろうか。今年度は木興プロジェクトのこれまでの活動のアウトプットを昨年度までより行うことを目標とし、SNS の更新や制作物に気を付けてきたが、まだ足りないとも感じる。そのようなことも踏まえ、アウトプットすることによる相対化、メンバー間での情報、思いの共有、制作物のレベルアップが今後必要である。





竹の会所四年目

課題と成果



今年度は、竹の会所を建設した当時のメンバーが一人しかおらず、その当時の緊迫感や感じたものなど、作業面も含めうまく受け継いでいるのだろうか、考えながら始まった年であった。それとともに仮設建築の4年という節目の年であり、竹の会所をどうしていくのか、春のワークショップでは、ヒアリングを行ったりと自分たちで考えながら活動を行ってきた。

大学で考えていてもわからなかったが、気仙沼に行くとその答えはあった様に思う。まだ、虎舞の練習をする場所ができていないこと、そして子供達が竹の会所で走り回り遊ぶ姿を見て、学生たちも継続に向けて頑張ろうと思えたのではないかと感じた。

去年から、「来年は節目の年だ、建設当時のメンバーがいなくなるから受け継ぎが大変だ」と言われてきた。メンバーの多くが1・2年生であり、受け継いでいくにはやはり言葉も大切ではあるが何かしら自分で感じとってもらうことも大切である。今年度は、ヒアリングをしたり、建設当時の先輩方が参加してくれたら、復興の話トークショーという形で聞くことができたことが成果だと言えるだろう。どう受け継いでいくか、悩んでいた上回生も地元の方や先輩の話聞くことで、気持ちが変わったと感じた。今年度参加してくれた、ひとりひとは何かしらを感じてくれたと思う。これこそが今年の成果である。

また、今後もこの感じたものを技術とともに受け継いでいくことが課題だといえるだろう。

ちよつときいてよ！ プロジェクト自慢



春ワークショップ 魚をさばく！

気仙沼は、漁業が盛んな地域である。そのため、いつもお世話になっている漁師さんがお魚を差し入れてくださったり、船に乗せてくださったりする。今回の春のワークショップでは、五十匹ものカレイをいただき、お刺身や煮付けにいただいた。

他にもワークショップのたびに、サンマなどのお魚をいただき、自分たちで調理し、いただいている。作業で疲れた後の美味しいご飯は、みんなの楽しみであり、いつもたくさん野菜や魚を差し入れてくれる地域の方々には大変感謝である。

夏のWSに30人の学生が参加



今年の夏のワークショップには、三十人もの学生が参加してくれた。今回は、2週間という長期間で竹の会所の大改修を行った。多くの学生が参加してくれたおかげでおかげで多くの作業を終わらすことができた。

プロジェクト紹介

宮城県気仙沼市に復興の拠点となる場所を作りたい。滋賀県立大学陶器研究室が中心となって始動した「竹の会所」プロジェクトです。そして竹の会所の今後を支えていく友の会、それがたけともです。祭りや補修WSを通して地域と交流しています。現在では滋賀県湖南市で、竹林保全のための「竹の庭」プロジェクトも行なっています。

竹の会所の仮設申請が2年延長！

竹の会所の建設から今年で4年が経とうとしている。今年、約束の4年目となる。建築仮設申請が4年であったからである。結果からお知らせすると、2年延長することとなった。竹の会所の建つ日門地区にまだ集まる場ができていない、虎舞の練習をする所もまだない、ということである。今後子供達の笑顔が集まる場を一緒につくっていきたいと思う。



地域の人の声

竹の会所でのお祭りには、毎回多くの子供達が遊びに来てくれる。毎回、学生も子供達も会うことをとても楽しみにしており、何か特別な話をしたりするわけではないが、竹の会所には多くの笑顔と声が溢れている。これこそが学生のモチベーションであり、地域に寄り添い活動する、たけともの姿であるのかなと感じる。



「竹の庭」プロジェクト



たけともは、気仙沼だけでなく滋賀県の湖南市菩提寺でも活動している。放置竹林をどうにかしようとして上がったこのプロジェクトは、今年で4年目となった。

今年度は、三月十二日、十八日まで今まで作ってきたものの修繕作業を行った。のべ二十人ほどの学生が地域のコミュニケーションセンターで寝泊まりし、行った作業である。

～たのうら便り～

発行：田の浦ファンクラブ
学生サポートチーム

震災から5年を迎えて・・・

発行日：2016年3月31日

プロジェクト紹介

宮城県南三陸町歌津田の浦をフィールドに、2011年3月11日の東日本大震災で被災された人々との交流活動を行います。月に1度の定期訪問(おちゃっこ会)に加え、8月の海の運動会、12月のおちゃっこクリスマス会、3月のキャンドルナイト、看護学生との健康促進イベントの年に4回、大きな地域復興イベントを開催します。また田の浦の方々との交流を通じて感じたこと、学んだことを滋賀に持ち帰り啓発活動を行うことで、滋賀のみなさんの被災地への関心を高め、記憶の風化を防ぎます。

おちゃっこ会



ハーブティーを飲んだり、おあばあちゃん手作りのお漬物をいただいております。今年度からは、田の浦を地域の方々とお散歩をしています。

海の運動会



開催日：8月16日

おらほのラジオ体操
コスプレ障害物走
玉入れ・ウニとり競争
海上レース・つなわたり

おちゃっこ クリスマス会



開催日：12月27日

おもちつき・ケーキ作り
イルミネーション点灯
サンタさん抽選会・懇親会

キャンドルナイト



開催日：3月11日

キャンドル作り・キャンドル点灯
ブルーベリー記念植樹
黙祷(3/11 14:46)・懇親会

地域の声

みんな、何回も来てくれてありがとう。来るのに時間もかかるし大変だろうけど来てくれることをいつも楽しみにしています。海の運動会は1年目より2年目、3年目と年を重ねるごとに、イベントが大きくなってきているし、参加者も増えているので来年は集落の人だけでなく、もっともっと町や一般の人が増えるように頑張って一緒に盛り上げて行きましょう。ワカメ、ホヤ、ホタテ、カキといった海の幸を楽しみにしています。

NPO法人田の浦ファンクラブ担当理事
千葉 昇一郎

ビッグニュース

私たちの1年間の活動をまとめた活動のしおりを作成しました！

興味のある方は是非お声をかけてください☆



プロジェクト自慢

絶品のホヤ！！

田の浦でとれる新鮮なホヤを食せばそのなんとも言えない甘みと鮮烈な味わいに感動すら覚えます。



成果と課題

今年も田の浦の方々たくさんの笑顔に出会うことができました。また、東北に行ったことがない人達と東北をつなぐ、きっかけを作ることができました。新たな田の浦のファンになってもらえ、今までのつながりはもちろん、たくさんのつながりを感じることができる1年間でした。田の浦のことを知ってもらうことが、一種の防災啓発や復興支援にもつながると思うので、広報活動をさらに充実させていきたいです。



* BADATO 地区 調査

地区の住民を交えてミーティングを行った。呼びかけた2時間後にもかかわらず多くの住民が集まり、なにが必要とされているのかを議論する。

- ・子供の遊び場
- ・広い調理場

この2つが必要とされていることが分かった。現実的にできることや必要性などを考慮し、メンバー内で議論した結果、子供の遊び場となるようなものを建てることになった。



* 材の 買出し

調査をもとに日本で設計していたものを見直す。コミュニティセンターを建設する予定であったため、子供の遊び場に適したプランに変更する。

ステイ先の人に車を出してもらい、木材や工具などの買出しに行く。建築材料としては現地古来の素材をできるだけ使用するようにした。屋根にはニッパヤシ、壁にはアマカン(竹を編んだもの)などを調達した。



* 施工 (WS)

1回生メンバーがタクロバンに到着。現地の大工に手伝ってもらい加工、建て方を行う。軸となるココナツ材の選定方法、特徴を教えてもらい、材の仕分けをすることから始まる。

日本で設計していた工法を一度ステイ先の人に見てもらい、工法を変更する。

初めにメンバーのみで施工していた部分が現地の大工に指摘されてより強度を高くするよう改善したり、増築を試みたりと、トライアンドエラーの繰り返しであったが、日本で考えていたことは状況が違ったため改善していくことは必然であった。



敷地はBADATO SITEと呼ばれるタクロバン北部の仮設住宅地の一つである。67世帯が住み、327人が居住しており、敷地の北側に常設住宅地があり、継続的に移動が繰り返されている。当初コミュニティセンターを建設するという許可が行政から下りていたが、住民は何も知らされておらず、そもそもこの敷地はどういう状況で何が求められているのかということを確認する必要があった。



暑い日差しをよけるような庇が必要となる。現地の人々が簡単に施工できるような素材を用いる。ひとつはニッパヤシを組み合わせた庇、そしてもう一つは市販のブルーシートの庇である。初めに常設住居の基礎調査としてヒアリングや実測調査を行った。そこからいくつかのモデルをつくり、住人と協議し住居の庇を提案作成した。



夏に引き続き仮設住宅の生活向上を目指すものを設計し、現地に乗り込んだ。しかし現地の復興計画の進行に大きな変化があり、仮設住宅が利用されなくなっていたため計画を変更し、支援によってできたKAPSO VILLAGEという常設住宅エリアで調査を進行させた。常設住宅は規格化された素材で融通の利きにくい形態である。そういった中で玄関先のコミュニティスペースをつくることはできないかと考えた。現地で小さな庇の提案を行い、施工した。

現地で計画の変更をすることになったため、初めに常設住居の基礎調査としてヒア

akarinchu

March, 2016

あかりんちゅはお寺や結婚式場等からいただいた残蠟を再利用してリサイクルキャンドルを作り、地域でキャンドルナイトやキャンドルづくり教室、キャンドルの販売をしています。こうした活動を通して普段つけている電気を消して、キャンドルの灯りで過ごすエコでスローな夜を提案しています。

キャンドル作り教室大盛況！

2015年11月15日の湖風祭でキャンドル作り教室をおこないました。昨年度までは湖風祭ではキャンドル作り教室はしていなかったので新たな試みでしたが、予想以上の多くの方が遊びにきてくださいました。小さなお子さんから大学生、保護者の方といった幅広い層の方々にキャンドル作りを楽しんでいただくことができました。キャンドル作りを通してろうそくのリサイクルについて知っていただくことができました。また、あかりんちゅのことをより多くの方に知っていただく機会にもなり、とても有意義な取り組みになりました。



吹奏楽部との共演

2015年6月6日の湖風祭にて、吹奏楽部のみなさんとの共演でハンドベルの演奏をしました。通りがかった方など、多くの方が立ち止まって聴いてくださいました。いつものハンドベルの演奏とはまた違った、素敵な音色を楽しんでいただくことができました。



透ける陶器のキャンドルホルダー

2015年7月4日、近江楽座・信楽人と合同で、特別な土を使った透ける陶器のキャンドルホルダーを制作しました。キャンドルの灯りがほのかに透ける幻想的なものになりました。10月25日のミツマルシェでのキャンドルナイトではこのキャンドルホルダーを使用しました。



かわいいキャンドルたくさん！

かき氷キャンドルやハロウィンをイメージしたキャンドルなどの季節に合わせたキャンドルや、メンバーがそれぞれ自由な発想で作った個性豊かなキャンドルは好評でした！生協や湖風祭、その他のイベントや他の楽座さんでの委託販売をしてたくさんの方々手に取っていただくことができました。

福祉活動

今まではメンバーで手作りしていたキャンドルナイト時に使用するティーライトの製造を滋賀県社会福祉事業団クリエートプラザ東近江ジョブカレに委託しました。製造委託することでキャンドルナイトという形だけでなく障害者雇用、就労支援といった福祉の観点から地域貢献ができました。また、ジョブカレさんの作るキャンドルは非常に質の良いものなのでキャンドルナイトもより良いものになりました。



滋賀県社会福祉事業団
クリエートプラザ東近江ジョブカレ
発達障害のある人が、ひとり暮らしを体験しながら障害特性をふまえた協力団体滋賀県社会福祉事業団専門的な生活訓練および就労準備訓練を受け、クリエートプラザ東近江ジョブカレ地域で自立した生活を送ることができるよう支援する事業

1年間の成果と課題

今年度はいままでの活動内容を見直して改善したりメンバーの意見を積極的に取り入れることで、他団体との活動や湖風祭でのキャンドル作り教室など新たな取り組みに挑戦することができました。一方で予想以上にたくさんの方に参加していただいたイベントでは材料が足りなくなるなど準備不足がみられました。次年度は事前準備も大切にし、イベントの質を高めたいと考えています。これからもあかりんちゅという団体をよりよいものにし、支えてくださる方々と地域に貢献できるよう頑張ります。

バサーズニュース

守ろう！琵琶湖の在来種

？滋賀県大BASSER'Sって？

滋賀県立大学の学生団体「滋賀県大BASSER'S（バサーズ）」は琵琶湖の外來生物問題に学生として何かしたいとの思いから、釣り好き、魚好き、生き物好きな学生が集まって発足した。学生として他の学生や地域へ働きかけ、地元の水域環境を守ることを目的としている。主な活動は、琵琶湖の内湖における月2回ほどの外來魚駆除と在來魚類のモニタリング。獲った外來魚はできるだけ胃の内容物や耳石による年齢の確認も行なっている。そのほか、外來魚駆除釣り大会やお魚採りイベントの自主開催、学生向けの勉強会や県と連携した活動、大学祭でのブース出展もしており、地域との連携、活動の展開が期待されている。



◎環境省製作の事例集に掲載決定
環境省監修のもと製作されている「地域市民参加型モニタリング事例集」にバサーズの活動が掲載されることが決定した。これまで五年間コツコツと活動を続けてきたことが実を結んだ。学生が主体となりモニタリング活動をしている団体は全国的にもまだまだ珍しく、その先駆的な例として自信を持ち活動を続けていく次第である。

BASSER'S初の出前授業！ 田んぼの生き物勉強会

◇大学生が先生
生き物について勉強しよう
二〇一五年七月二日、滋賀県大バサーズに初めての出前授業の依頼があり、能登川東小学校五年生の授業に講師として参加した。内容は、水田の生物についてであった。トノサマガエル、ハツタミミズ、ナマズなどの生き物を展示し、生き物の特徴や水田生態系内での役割についても解説した。生き物の特徴を開設する際には、クイズを出すとよく手を挙げる様子が見られ、児童たちは積極的に授業に参加していた。

解説の後は、展示されている生き物に実際に触れた。日本一の長さに成長するハツタミミズであるが、みんな躊躇することなく持ち上げて記念写真を撮った。滋賀の子供たちは勇敢であった。
授業の最後に設けた質問コーナーでは、鋭い質問が飛び交い、大学生もタジタジ。授業時間をオーバーするまで質問が出ていた。地域の小学校から初めての依頼であり、我々の活動の認知度、信頼度が高くなっていることを感じた。今後も継続して読んでもらえるよう努めなければならない。



←生き物クイズに積極的に手を挙げる児童ら
質問が飛び交い、大学生もタジタジ。授業時間をオーバーするまで質問が出ていた。地域の小学校から初めての依頼であり、我々の活動の認知度、信頼度が高くなっていることを感じた。今後も継続して読んでもらえるよう努めなければならない。

大学の水路で生き物とり 県大水路探検隊

◇大学の水路を探検
生き物とり名人を目指す
二〇一五年七月二〇日、滋賀県立大学の講義室には、たくさんの方が集まっていた。バサーズ開催のイベント、県大水路探検隊の参加者だ。本活動は、犬上川で生き物とりをする予定であったが、台風による増水の影響で活動地を変更した。

当日は、講義室で生き物のとり方について勉強し、そのあとに実際に野外に出てタモ網によるガサガサを行なった。子供たちからは楽しそうな声があふき、バケツにどんどん生き物が入った。生き物がとれた後は、その生き物について解説をした。バサーズのイベントは、遊びと学びがセットなのが特徴だ。子供たちはケース内の生き物をじっくり見つけ、真剣に解説を聞いていた。



←工学部等前を流れる水路でガサガサ。何がとれるかな。
生き物をとった後は講義室に戻り簡単に作れる生き物トりの道具、ペットボトルセルピンを作った。後日、一部の参加者からは「作ったペットボトルセルピンで生き物がとれました。」といううれしい報告もあった。

◎地域の声

七月の水路探検隊に参加したメンバーより活動が楽しかった様子がうかがえるメッセージがたくさんありました。皆さんのお人柄、そして活動への熱意が伝わり、皆が楽しく過ごせたことに心から感謝しております。
我が家でも、生き物についていろいろと感心ごとが増え、おかげさまで夏休みの楽しみがたくさん増えました。ありがとうございます。

にほんブログ村 高尾有貴子

2015年度の活動を振り返って

今年度で、我々の活動が始まってから五年が過ぎた。ここまで活動を続けることができたのは、多くの方からの支えがあったからに他ならない。神上沼での駆除活動および啓発活動を継続して続けてきた結果、地域からの信頼もより厚くなってきたことを感じた。今年度行なった啓発活動はその多くが主催者および協力団体から依頼されたものであり、時には小学校の出前授業や生き物トりの講師の依頼も多かった。地域のニーズにこたえられることができ、団体として大きく成長できた。滋賀県大バサーズは、単なる駆除活動を行なうだけではなく、広義での環境教育活動を行なう団体でもあるべきだと私は考える。今後も、地域の中に入った活動を行う。そして、多くの人に水辺の環境に親しんでほしい。
しかし、啓発活動では下級生の能力不足を感じる部分もあり、上級生が参加しないと成り立たないのが現実である。上級生が持つノウハウを下級生に伝え、メンバーがより大きく成長することを願う。
我々が今後どのような活動をしていくべきなのか、地域で必要とされていることは何なのかをしっかりと考え、永く継続する団体になるよう努めたい。

代表 北野 大輔



ひまわり油たくさん取れました！

(右)休耕田のひまわりの様子 8月19日
(左)ひまわりからとれた油 11月10日



彦根市三津町にある休耕田と県立大学の工学部棟で菜の花とひまわりの栽培を実施した。休耕田では4月から6月にかけて菜の花の栽培を行い6月から10月にかけてひまわりを栽培した。

今年度は菜の花からはあまり油がとれなかったが、ひまわりから約6リットルの油を収穫することができた。これは昨年度の収穫量の約2倍である。

収穫した油は、天ぷらなどに利用し廃食用油を回収、その後、廃食用油でバイオディーゼル燃料を製造し、菜の花、ひまわりを通じた「資源循環」を実践した。

フラワーエネルギー

「なの・わり」



フラワーエネルギー「なの・わり」は、植物を使った資源循環型社会の形成を目指したプロジェクトで、菜の花・ひまわりの栽培を行っている。また、小学生・高校生を対象とした授業イベントで、環境やエネルギーに関する啓発活動を行っている。

今年も3校の 小学校へ訪問

今年度は城北小学校、稲枝西小学校、平田小学校で出前授業を実施した。授業内容は、地球温暖化やバイオディーゼルについての講義や、手のひらで発電する実験などである。

「バイオディーゼルで地球を救おう！」の劇では小学生たちに、バイオディーゼルについて興味を持ってもらえた。授業後のアンケートでは、「二酸化炭素についてもっと知りたい」「地球温暖化のことがわかった」「実験がもっとしたい」などの声があり、地球温暖化について関心をもってもらったことができた。



出前授業の様子 平田小学校 6月25日

チームのビッグニュース

7月17日に豊郷町で行われた豊郷小学校と日栄小学校の3年生の交流会イベントに参加した。なのわりは、「ゴミの分別についての劇を行った後、それに関するゲームをしてもらい、小学生との交流を深めると同時に、環境問題について関心を持つてもらったことができた。



豊郷町交流会イベントでの劇の様子 7月17日

交流会後、子供たちから、「ゴミの分別をちゃんとやる」等の声を聞くことができた。

三津町フェスタへの参加

10月12日、休耕田のある三津町で三津町フェスタが開催された。なのわりの活動を地域の方々にもっと知ってもらうため、三津町フェスタに参加させて頂いた。地域の子供たちと手のひら発電やバイオディーゼルの寸劇を行い、地域の方々になのわりの活動を知ってもらったことができた。



三津町フェスタの様子 6月25日

湖風祭で子供たちと実験

大学の学園祭である湖風祭で、自転車発電でゲームを動かす実験でのひら実験、自転車で蓄電池に電気をためる実験、ひまわりの油を用いた天ぷらの試食を行った。子供連れのお客さんが多く来てくれ、自動車発電やひまわり油の天ぷらに興味を持って頂けてよかったと思う。



自転車発電の様子 11月14日

成果と課題

今年度はひまわりの油の収穫量が増えた。また、地域のイベントに積極的に参加、活動を知ってもらえた。しかし、研究室以外のメンバーが2人しかいないので、もっとメンバーをふやしていきたい。

ボランティアサークル Harmony 新聞

*チームのビッグニュース 〜おとくらさんでの はじめての展示会〜

今年度は、ハーモニー初の取り組みである、おとくらさんでの展示会を行いました。

普段の定例活動の中で、子どもたちは油絵や粘土などの作品を制作しています。また、前年度のお泊り会の際にも、信楽焼のお茶碗を全員が制作しました。今までは作品を作った終わりでしたが、今年はおとくらさんの展示スペースをお借りし、子どもたちの作品の展示会を行いました。一般の方にも、子どもたちの作品とハーモニーの活動を知って頂けるよい機会となりました。



*プロジェクト紹介

ハーモニーは障がい児・者とその家族、支援者などからなるNPO法人「障害者の就労と余暇を考える会メロディー」専属のボランティアサークルです。

メロディーは地域の人たちの理解の中で普通の生活をした、働きたいという障害者の願いを実現させるため、障害者の社会参加を促進し、就労の自立を図るとともに余暇活動をはじめとした豊かで充実した社会生活を支援する団体です。ハ

ハーモニーというサークルの名前は、メロディーにハーモニーを奏するという意味でつけられたそうです。私たちはそんなメロディーに所属する四歳から二十二歳の他人とコミュニケーションをとることに困難が生じる自閉症やダウン症などの障がい児・者と、その兄弟とともに様々な活動をしています。

メロディーに所属する障がい児・者には色々な人がいます。学生は障がい児・者を相手にしていくわけなので、不安だったり、何をしたいのかわからなかったり、ということが起こります。そのような状況の中でメロディーさんの方から、「活動の中で、もしも何かが起こった場合には、すべての責任は私たちがとる、だから学生たちは、安心して積極的に活動に取り組んでください。」というお言葉を何度もいただき、私たちはこれまで活動を続けていくことができました。

ハーモニーの活動は「自分からは楽しいこと面白いことを見つけて、苦手な子どもたちに、こんな楽しいことがあるのだなって感じてもらうお手伝いをしていただけませんか？」というお母さんたちの呼びかけから始まり、十年以上ハーモニーの活動が続けられてきました。



*地域の声

障害者の余暇と就労を考える会メロディーの活動を通して、ハーモニーには大変お世話になってい

ます。息子が小学校二年生のときからのお付き合いで、現在息子は中学三年生になり八年間の長いおつきあいになります。息子は重度の知的障害を伴う自閉症です。社会性、コミュニケーション、想像力の三つの条件を満たすと自閉症と診断されます。ハーモニーとの活動は、この三つの苦手な部分について、息子の成長に大きな影響を与えてくれてい

ます。毎年障害児者をはじめ一般の地域の方向けにメロディーと共催しているクリスマスコンサートでは、最近ではハーモニーが主体となつて、よりみなさんに楽しんでもらおうと企画してくれ、年々内容も充実し、広く地域に親しまれてきています。出演してくれた吹奏楽部の学生さんと話す機会があったのですが、「このコンサートのお客さんは素直に声援を送ってくれたり、踊ってくれたりするので、喜んでくれてるのが実感できて演奏していて楽しいです。」と言ってくれました。こ

の子たちの良さに気付いてくれる人が、また一人増えたことによりうれしく思い、ハーモニーの活動の無限の可能性を感じました。ハーモニーは、先輩の経験と知識が後輩へとしっかりと受け継がれているように思います。毎年よりよいものへと活動内容が見直されており、進化し続けるハーモニーは、

私たちメロディーにとっては、とても頼もしく、心強いものです。これからも、子どもたちの可能性をより広げてもらえることを期待しています。

*ちよつと聞いてよ！ プロジェクト自慢

お茶会は定例活動の時に毎回行っている活動です。茶道には一連の作法があります。また静かにして正座しなければなりません。苦くてお茶を飲めない子どもも多く、子どもたちにとってあまり楽しい活動ではないかもしれません。しかし、このような決められたことをすること

で決まりを守るようになったり、協調性を身に付けたりできるので、今年度は昨年引き続き、二人の学生が三か月間お茶の先生のもとに通い、正しい作法と子どもたちへの指導法を学びました。正しい作法を知る学生が増えたことで、普段のお茶会をスムーズに行うことができ、お茶を習っていない学生に作法を伝える際も、余裕をもって伝えることができるようになりました。

継続してお茶会を行うことで、お茶会の雰囲気や学生の意識にも変化がみられるようになりました。初めは、子どもがすぐにお菓子やお茶に手をつけてしまい、作法を教える間もなく終わってしまう、ということもありましたが、回を重ねるごとに、学生が子どもたちにきちんと作法を教えるながら、一緒にお茶をいただくとする姿が見られるようになりまし

た。急に難しい作法を覚えるのは学生でも大変です。しかし、大切なのは作法を覚えることではなく、お茶を通してルールや協調性、思いやり

の心を身につけることにあります。これを簡単にできることではありませんが、子どもの成長を継続的に見ることが出来るハーモニーであるからこそ可能なことだと思います。



*一年間の活動を通じた 成果と課題

今年度は、前年度の活動内容を参考にしながら活動の企画をハーモニー主体で行うことができ、メロディーさんの負担を少しでも軽減できたと思います。加えて、継続して活動を行い続けることを重点に置き、メンバーと積極的に連絡を取り合いながら活動すること改善することができました。

定例活動の一環の油絵では、子どもたちの色使いに変化があり、単色から混ぜ合わせた色を使う姿が見られるようになりました。継続して行う活動のなかで、子どもたちの成長を感じ、それと同時に活動がしっかりと成果をあげていたことを実感することができました。

また学生個々人にも、障害をもつ子どもたちと関わる中で成長していく姿が見られ、子どもとの接し方を学んだり、子どもの担当につくことに対する責任を、強く意識できるようになったと思います。

課題としては、映像媒体や画像媒体の記録の確認、それを踏まえた上での反省が十分ではなかったことを挙げたいと思います。記録や確認を行っていたら、客観的に自分たちの活動を見返すことができたので、それができていなかったのは非常に残念でした。

加えて、部員全員が田滑に意見交換することができていないことも課題として挙げたいと思います。学年や学ぶ分野に違いはあっても、子どもたちのために活動しているという点は変わりません。メロディーさんは学生が創意工夫して成長できるように、アドバイスは敢えてしないようにされています。だからこそ、誰もがしっかりと自分の意思を持ち、先輩後輩の関係を越えて、仲間として意見を出し合えるような雰囲気を作り上げることが今後の課題としていきたいと思



近江楽座 〜廃棄物バスターズ〜

廃プラと水資源を意識できる 地域人・社会を目指して

雨水タンク

本団体は廃棄プラスチックからリサイクルプラランターの開発、製造、販売に貢献してきた団体です。この活動の際に、廃棄プラスチックを用いても強度を保つことのできる技術を開発しました。

そして今年度より、この技術を用いて新たに廃棄プラスチックを雨水の再利用、ゲリラ豪雨等による水災害の予防、災害時のための貯水が可能な雨水タンクにも用いようと考えました。ただし、これまで行ってきたリサイクルプラランターとは求められる事柄が大きく異なっているため、当研究室で実験・考察することが必要です。

私たちの活動により実際に雨水タンクを製造・販売し、各家庭に普及し人々の環境への意識向上が図れると考えています。また、各家庭に小さなダムを所有するような社会のあり方を目指しています。



雨水タンク」の成形

可能です！

昨年の12月、株式会社コダマ樹脂さんに廃棄プラスチックを混ぜたペレット試料をお送りし、雨水タンク成形の可能性を検討していただきました。検討のために作製していただいた成形容器（左図）をお持ち下さったところ、容器の肉付きや見た目など特に問題なく、雨水タンクの製造が十分可能である」とお話ししていただきました。

また強度に関しては、純粋品に比べると劣りはしますが、商品としては用いることが出来るとも仰っていました。

残る耐候性の面などは今後私たちの実験により評価する必要があります。



福祉事業所の方の声 いしづみの家 西村さん

廃棄物バスターズとの協働活動も早いもので6年が経過しました。6年が経過し活動自体は安定し進んでいます。社会性を養うという点について各作業所としては課題に上げていますので、公共の場所に出してお客さん・バスターズのメンバーと会話・挨拶をすることはとても重要な部分です。バスターズには新たな製品・企画の提案などを柔軟な発想力でしてもらい、今後の展開についての重要な部分を担っていただいています。今後も協力お願いいたします。

雨水タンク」だけじゃない！

〜廃棄物バスターズ〜

hana-walk活動

これまで力を入れていたりサイクルプランターを用いて福祉問題へのアプローチを実現したものがCommunity活動です。現在4つの福祉事業所と上西産業(株)と協力し、リサイクルプランターの販売やメンテナンスを行っています。私たちは特にプランター数の多い菩提寺PAと大津SAの草花メンテナンスに参加し、整備のお手伝いをしています。

荒神山周辺の清掃・整備

荒神山前にある宇曾川の清掃活動と宇曾川ボート乗り場周辺の草刈りを行っています。また荒神山の枯れ松の伐採及びその運搬と、近辺の清掃活動も行っています。

彦根きれい隊参加

彦根駅周辺の美化活動をなされている彦根きれい隊に参加させていただき、彦根市周辺や、よさこい祭り、ゆるキャラ祭りでのゴミ拾いや交通の警備等のお手伝いを行っています。



廃棄物バスターズのこれから

来年度は、雨水タンク作成を本格化するとともに今年度行くことができなかった工場見学にも行きたいと考えています。その他の活動についても今後積極的に参加、発展させる事を考え、地域の方に廃棄物バスターズを知っていただくこと、地域貢献することの両立を図りたいと思っています。